

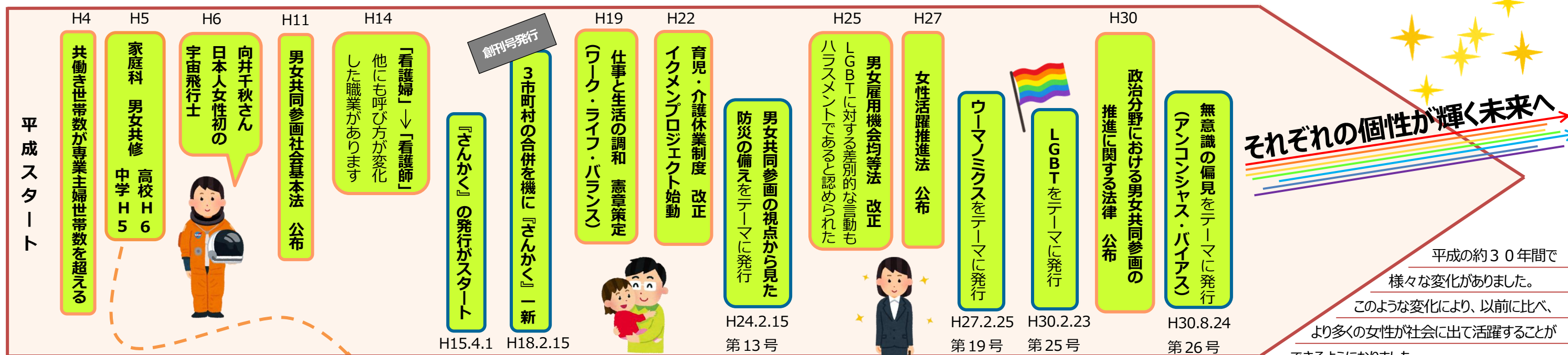


さんかく

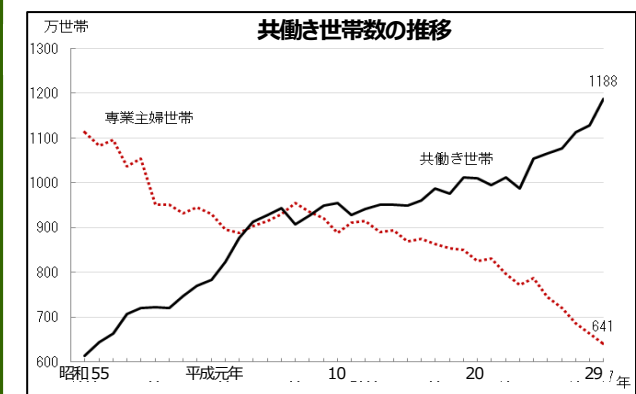
※この情報紙は市民からの公募による編集委員によって作成されています。
女性 (Female) と男性 (Male) がともに支え合い、対等な立場で社会 (Society) を形成することを願って!!
平成31年 (2019年) 2月25日 第27号
企画課 男女共同参画室 (内線2238)

平成をふり返る男女共同参画

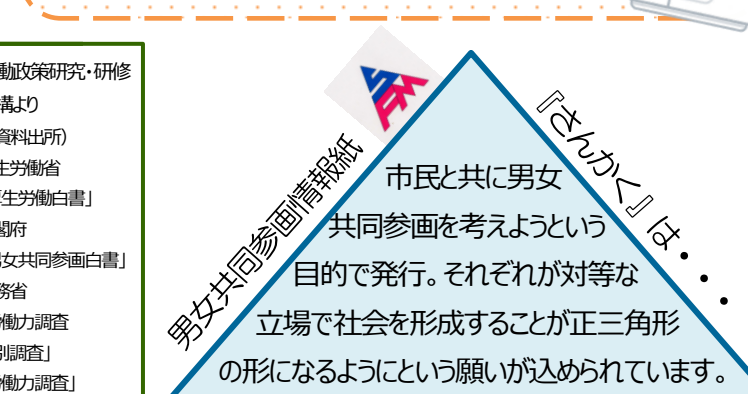
平成も残すところあと2ヵ月余りとなりました。この約30年間で社会にどのような変化があったのでしょうか。
男女共同参画の視点から、そしてこの男女共同参画情報紙「さんかく」の歴史と共に、皆さんと一緒にふり返ってみましょう。



共働き世帯が増加した背景には様々な要因があると思います。「男は仕事、女は家庭」という従来の価値観が変わりつつあり、徐々に女性にも働きやすい社会へと変貌を遂げています。



実は、中学校・高等学校で家庭科を男女とも学ぶようになったのはこの頃からです。それまでは、女子が家庭科を受けている間、男子は技術や体育を受けていることが多かったようです。今の学生の皆さんには、驚きの事実ですね。



佐々木 孝昌 市長へズバツとインタビュー

平成30年7月9日に就任した佐々木市長に、編集委員が男女共同参画の視点からインタビューをしました。

Q1. 以前と比べて感じる社会の変化は？

自分の孫の行事を見に行くと、若いお父さんがたくさん参加しており、男性の子育てへの関わり方が昔とは大きく変わったなと実感しています。

Q2. 市長の家庭での役割、育児への関わり方は？

残念ながら、仕事、仕事で、家のことは妻にまかせっきりで、子育てに関われずに来てしまいました。妻に感謝しかありません。

Q3. 男女ともに働きやすい職場環境づくりに必要なことは？

仕事をする上で「同僚支援」の意識を持つことが必要です。この意識を持ち、同僚との信頼関係を築けるリーダーでなければ、組織は活性化していきません。「同僚支援」の意識を持ち、職員同士の信頼関係を築きながら、女性が活躍できる職場、働きやすい職場環境を整えていきたいです。

Q4. 女性がより社会で活躍するため大事だと思う取り組みは？

人口減少が進むにつれ、市役所だけでなく民間企業でも労働力不足が大きな課題となり、今以上に女性の役割が重要になります。女性が自身のキャリアビジョンを描けるよう管理職の登用率を高めると共に、研修など意識啓発機会を増やし、女性が活躍できる環境づくりに取り組みます。

女性活躍推進法

女性が個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主に義務付けられました。

※常時雇用する労働者が300人以下の民間企業等は努力義務

▶五所川原市が策定した計画(数値目標)と現状は？

	職員1人当たりの超過勤務時間数	係長以上の女性役付職員の割合	育児休業を取得する男性職員の割合
H27	5.1時間	12.9%	0%
H28	4.1時間	12.6%	25%
H29	4.5時間	13.8%	20%
目標	4.5時間未満	15%以上	15%以上

女性の社会進出という面では、「男女共同参画社会」が進展したように思いますが、新たな課題も出てきています。

これから先、時代と共に変化していく課題に対応するため多様性を受け入れることが、より一層必要になってきます。

性別にとらわれず、それぞれの可能性を発揮できる新しい社会を目指して、皆さんも今一度、自分自身をふり返ってみましょう。

編集後記

男女共同参画社会の情報発信を始めて15年。(わんつかでもわかってもらえたでしょうか?)

毎日のコミュニケーションで話題にしていけたら

いいなあ〜(S)

▲編集: さんかく編集委員6名▲